

日本組織培養学会
平成7年3月31日

会員通信
第84号

発行責任者
※宇田川 康博 (慶應大医学部)
佐藤 靖史 (東北大学加齢
医学研究所)
増井 徹 (京都大医学部)
※〒160 東京都新宿区信濃町35
慶應大学医学部産婦人科
電話 03-3353-1211 内2386
Fax 03-3226-1667

§ 日本組織培養学会第68回大会最終案内

日本組織培養学会第68回大会を下記の予定で開催します。今回は、一般講演に力を注ぎ、この学会が研究会であったころの初心に帰って各人の講演と討論時間をできるかぎり長く取れるように努力しましたが、結局、各演題討論を含めて20分が確保されたに留まりました。この時間が短いか長いかの判断は、難しいところですが、活発な討論で運営を盛り上げて頂きたく思います。世話人一同、5月の長崎でお会い出来ることを楽しみにお待ちしております。

◆学会期日 平成7年5月17日(水)～19日(金)

◆行事の開催場所と日時

細胞バンク委員会	5月16日 14時～16時	長崎パークサイドホテル
幹事会	5月16日 16時～18時	長崎パークサイドホテル
シンポジウム	5月17日 10時～17時50分	長崎厚生年金会館
学会誌編集委員会	5月17日 13時10分～14時10分	長崎厚生年金会館
一般講演	5月18日～19日	長崎厚生年金会館
総会	5月18日 17時40分～18時40分	長崎厚生年金会館
懇親会	5月18日 19時～21時	長崎厚生年金会館

○長崎パークサイドホテル 長崎市平和町14番1号 電話 0958-45-3191

JR長崎駅よりタクシー7分、JR浦上駅よりタクシー3分

路面電車では松山町下車徒歩5分

○長崎厚生年金会館 長崎市茂里町3番20号 電話 0958-45-0860

JR長崎駅よりタクシー5分、JR浦上駅より徒歩3分

路面電車では浦上駅前下車徒歩5分

◆大会事務局

長崎大学薬学部放射薬品学 長崎市文教町1-14

大会専用電話およびファクシミリ 0958-44-5504

世話人 渡邊正己 事務担当 奥喜美子

◆宿泊案内

日本旅行長崎支店・担当・木津好洋

電話 0958-26-9307 ファクシミリ 0958-25-8552



日本組織培養学会第68回大会プログラム

	5月16日(火)	5月17日(水)	5月18日(木)	5月19日(金)
9:00			受付開始(8:30)	受付開始(8:30)
10:00		受付開始(9:00) 学会開始(9:50)	一般講演 I (9:00-10:20) がん化に関連する遺伝子変化	一般講演 VI (9:00-10:20) 細胞の樹立と培養
		シンポジウム (10:00-17:50) “植物と動物を分けるものはなにか - 遺伝情報から細胞機能発現への過程で -” I 導入 II 分化 III ホメオスタシス	一般講演 II (10:20-11:40) 増殖因子と分化因子	一般講演 VII (10:20-11:40) 機能発現培養と応用 (I)
12:00			ワークショップ (11:40-12:40) “ヒト組織・細胞の取り扱い”	一般講演 VIII (11:40-12:40) 機能発現培養と応用 (II)
13:00			昼食 (12:40-14:00)	昼食 (12:40-14:00)
14:00		昼食 (13:10-14:30) 編集委員会 (厚生年金会館)		
15:00	細胞バンク委員会 (14:00-16:00) (長崎パークサイドホテル)		一般講演 III (14:00-15:00) 遺伝子発現制御 (I)	一般講演 IX (14:00-15:20) 遺伝的変異の解析法
		IV 老化 V 細胞死 VI まとめ	一般講演 IV (15:00-16:00) 遺伝子発現制御 (II)	一般講演 X (15:20-16:00) 老化と不死化
16:00			一般講演 V (16:00-17:40) 細胞機能調節因子	一般講演 XI (16:00-17:00) 細胞増殖制御
17:00	幹事会 (16:00-18:00) (長崎パークサイドホテル)	シンポジウム終了 (17:50)		学会終了 (17:00)
18:00			総会 (17:40-18:40)	
19:00			懇親会(19:00-)	

プログラム

5月16日 (火)

14:00-16:00 細胞バンク委員会 長崎パークサイドホテル

16:00-18:00 幹事会 長崎パークサイドホテル

5月17日 (水)

9:00 受付開始 長崎厚生年金会館

9:50 学会およびシンポジウム開会挨拶

10:00 シンポジウム

植物と動物を分けるものはなにか? - 遺伝情報から細胞機能発現への過程で -

10:00-10:10 I 導入 渡邊正己 (長崎大学・薬学部)

10:10-11:40 II 分化

植物における分化 菊池尚志 (農林水産省・農業資源研究所)

動物における分化 鍋島陽一 (厚生省国立精神・神経センター神経研究所)

11:40-13:10 III ホメオスタシス

植物におけるストレス応答機構 平山隆志 (理化学研究所)

動物におけるストレス応答機構 D.A.Boothman (University of Wisconsin, USA)

13:10-14:30 昼食、編集委員会

14:30-16:00 IV 老化

植物における老化 渡辺 昭 (東京大学・理学部)

動物における老化 井出利憲 (広島大学・医学部)

16:00-17:30 V 細胞死

植物における自己消化 大隅良典 (東京大学・教養学部)

動物におけるアポトーシス 大山ハルミ (放射線医学総合研究所)

17:30-17:50 VI まとめ

菊池尚志 (農林水産省・農業資源研究所)

渡邊正己 (長崎大学・薬学部)

5月18日 (木)

8:30 受付開始

9:00-10:20 がん化に関連する遺伝子変化 座長 鈴木文男 (金沢大)

1. チャイニーズハムスターの悪性形質転換細胞に検出された P53 遺伝子変異の役割
鈴木文男、清水貴壽、今村律子、小川武利、二階堂修 (金沢大学・薬学部・放射薬品化学)
2. 変異 P53 導入ヒト細胞の放射線感受性の亢進と変異細胞の出現率の増加
川島邦裕、三原浩一郎、加納良男、難波正義 (岡山大学・医学部・分子細胞研究所・細胞生物学)
3. がん形質発現における HSP72 遺伝子の役割
阿南真理、野上良太、児玉靖司、鈴木啓司、渡邊正己 (長崎大学・薬学部・放射薬品学)
4. SCID マウス由来培養細胞の温熱感受性と温熱耐性
島崎達也¹、井原 誠¹、小松賢志²、奥村 寛¹ (¹長崎大学・医学部・原爆医学研究所・放射線生物学、²広島大学・原爆医学研究所・放射線基礎部門)

10:20-11:40 増殖因子と分化因子 座長 星 宏良 (機能性ペプチド研究所)

5. 表皮成長因子およびケラチノサイト成長因子による前立腺芽の誘導
水野丈夫、斉藤美和子 (帝京大学・薬学部・生物学)
6. ニワトリ初期胚細胞の初代培養とこれに対する分化誘導物質の影響
林 彩、黒田行昭 (麻布大学・環境保健学部・生命科学)
7. 培養ラット腎細胞の分化・増殖に対するアクチビンの作用
黒田行昭¹、鳥居邦夫² (¹麻布大学・環境保健学部・生命科学、²味の素・中央研究所)
8. MDC K 細胞の結石様沈着物形成とカルシウムイオンの濃度の影響
大田原佳久¹、影山慎二¹、渡辺哲也¹、内藤恭久²、鈴木和雄¹、藤田公生¹
(¹ 浜松医科大学・泌尿器科、² 浜松医科大学・病理学第一)

11:40-12:40 ワークショップ

“ヒト細胞・細胞の取り扱い” 座長 大野忠夫 (理研)

- W-1 培養学会細胞バンク委員会倫理における取り組み 松村外志張 (明治乳業ライフサイエンス研究所)
- W-2 組織培養学会に望むこと 野本亀久雄 (九州大学)
- W-3 総合討論

12:40-14:00 昼食

14:00-15:00 遺伝子およびタンパク発現制御 (I) 座長 野瀬 清 (昭和大)

9. ヒト唾液腺腫瘍の悪性転換過程における FGF-1、FGF-2 および FGFR1

～ F G F R 4 遺伝子の differential expression

岡本哲治、坂本哲彦、田中良治、明見佳子、高田和彰（広島大学・歯学部・口腔外科第一）

10. 神経外胚葉系由来腫瘍におけるvascular endothelial growth factor(VEGF)およびVEGF受容体遺伝子の発現

坂本哲彦、岡本哲治、田中良治、高田和彰（広島大学・歯学部、口腔外科第一）

11. アストロサイトの継代培養に伴う形質発現の変化

左右田昌彦、澤田 誠、細谷弘美、丸野内隼（藤田保健衛生大学・総合医学研究所・応用細胞学）

15:00-16:00 遺伝子およびタンパク発現制御（Ⅱ） 座長 児玉靖司（長崎大）

12. ヒトスジシマカ培養細胞C6/36における Dengue 2 型ウイルス抗原およびウイルスRNA産生に対する培養温度の影響

M.N.M. Mangada、M. Halimah、L.d.C.Castillo、五十嵐 章（長崎大学・熱帯医学研究所・病原体解析部門・分子構造解析分野）

13. ヒト肺微小血管内皮細胞のurokinase型plasminogen activatorおよびPA inhibitor-1産生における特異性

高橋君子¹、上部泰秀²、木口俊郎¹、中村博幸¹、柏原光介¹、柳生久永¹、松岡 健¹、沢崎嘉男³（¹東京医科大学・第5内科学、²防衛医科大学・第3内科学、³防衛医科大学・第1解剖学）

14. 新生仔ラット小脳の初代培養におけるNO産生能のサイトカインによる制御

佐藤郁子、氷見敏行、金 美江、室田誠逸（東京医科歯科大学・大学院・細胞機能制御学）

16:00-17:40 細胞機能調節因子 座長 三井洋司（工業技術院）

15. ヒト胎児細胞における放射線適応応答と細胞情報伝達の関係

石井敬一郎¹、渡邊正己²（¹電力中央研究所、²長崎大学・薬学部・放射薬品学）

16. 血管内皮細胞に対するエピモルフィンの影響

岡 由美子、平井洋平（住友電気工業・バイオメディカル研究部）

17. HB-EGFにおける角膜細胞の増殖および遊走促進作用

王曉光¹、神山健児¹、井口郁夫¹、東山繁樹²、谷口直之²、今西二郎¹
（¹京都府立医科大学・微生物学、²大阪大学・医学部・生化学）

18. オキザロ酢酸の培養ヒト食道癌細胞に与える影響について

赤石 隆、庄司 勝、片山正文、黒沢直美、西平哲郎、森 昌造（東北大学・医学部・第二外科学）

19. 高酸素培養による心筋細胞拍動促進作用

鈴木崇彦¹、三井洋司²（¹東京大学・医学部・放射線研究施設、²工業技術院・生命工学工業技術研究所）

17:40-18:40 総 会（長崎厚生年金会館）

19:00 懇親会（長崎厚生年金会館）

5月19日（金）

8:30 受付開始

9:00-10:20 細胞の樹立と培養 座長 加地和彦（都老人研）

20. ヒト間葉性軟骨肉腫株の樹立とその増殖特性

鈴木利光（福島県立医科大学・病理Ⅱ）

21. 十二指腸カルチノイド由来CT-nu-1培養細胞株の樹立

内藤恭久、喜納 勇（浜松医科大学・病理第一）

22. ヒト細胞傷害性Tリンパ球の末梢血からの誘導、活性測定法、その無血清培養法について

大野忠夫、劉書欽、張一國、金範洙、金昌鉉、西條薫（理化学研究所・細胞開発銀行）

23. 新しく開発した細胞培養用低酸素炭酸ガスフラン器による細胞のコロニー形成率と増殖率の検討

湯浅貴恵¹、高野和深²、国定俊之³、難波正義³（¹鳥取大学・医学部・生命科学研究所、²山陽電子工業、³岡山大学・医学部・分子細胞研究所・細胞生物）

10:20-11:40 機能発現培養と応用（Ⅰ）座長 小島肇夫（日本メナード化粧品）

24. 高分子材料の改質と細胞適合性の評価—宇宙における細胞培養を想定して—

谷口佳隆¹、斉藤 恵¹、菅野恒博¹、添田房美¹、長岡俊治²（¹東レリサーチセンター、²宇宙開発事業団）

25. コラーゲン・ゲル・ドロップ培養法—画像解析定量法を用いた抗癌剤感受性試験（CD-DST法）の有用性の検討

小林昶運¹、谷坂圭造¹、肥塚正博¹、土井 修²、瀧 俊彦³、原 聡⁴（¹新田ゼラチン・研究開発室、²大阪府立成人病センター・外科、³北野病院胸部外科、⁴近畿大学・医学部・第一外科）

26. 培養基質の初代ラット肝細胞機能維持に及ぼす影響

中嶋裕人¹、栗田僚一²、河村健司²、新原直樹²（¹住友電気工業、²秋田住友ベーク）

27. 化学処理コラーゲンゲル上での初代ラット肝細胞の長期機能維持

栗田僚一¹、中嶋裕人²、新原直樹²、河村健司¹（¹秋田住友ベーク、²住友電気工業）

11:40-12:40 機能発現培養と応用（Ⅱ）座長 鈴木利光（福島県立医大）

28. 三次元培養皮膚モデルを用いた皮膚刺激性試験の代替

小島肇夫¹、花村朝夫¹、諸田勝保²、森田真一郎²、高澤弘明²、小西宏明¹（¹日本メナード化粧品・研究技術部門、²ゲンゼ、京都研究所）

29. 温度感受性ポリマーを用いた機能発現培養法

窪田 倭（聖マリアンナ医科大学・第一外科）

30. 多細胞スフェロイドにおける分化機能発現に関する検討

西河由紀¹、野田実由樹¹、児玉靖司¹、鈴木啓司¹、山崎 学²、森 有一²、
渡邊正己¹(¹長崎大学・薬学部・放射薬品学、²グレース日本中央研究所)

12:40-14:00 昼食

14:00-15:20 遺伝的変異の解析法 座長 小山秀樹 (横浜市大)

31. Reverse Chromosome Painting法によるゲノムDNAの増幅および欠失領域の
特定：HL60とその変異株HL60RGの比較研究

山辺秀之、大西清方、高田容子、岡戸 清、祖父尼俊雄、水沢 博 (国立衛生試
験所・変異遺伝部・細胞バンク)

32. PCR法によるヒト白血病/悪性リンパ腫由来培養細胞株の身元識別

松尾良信、大倉律子、西崎千春、箕和田潤 (林原生物化学研究所・藤崎細胞セン
ター)

33. ヒト細胞の非相同期組換えに及ぼすトポイソメラーゼII阻害剤の効果

藤巻克通、荒谷康昭、小山秀樹 (横浜市立大学・木原生物学研究所)

34. デングウイルスの培養細胞における動態

山田堅一郎¹、沼田光弘¹、加治和彦²、高橋君子³(¹国立予防衛生研究所、
²東京都老人総合研究所、³東京医科大学)

15:20-16:00 老化と不死化 座長 難波正義 (岡山大)

35. 培養条件下におけるニワトリ胚細胞の老化とこれに影響を与える因子の研究
富吉英俊、黒田行昭 (麻布大学・環境保健学部・生命科学)

36. ラット腎糸球体上皮細胞株 (SGE1) の不死化と関連遺伝子

宮村由美、森藤千晴、友野靖子、沖垣 達 (重井医学研究所・細胞生物部門)

16:00-17:00 細胞増殖の制御 座長 鈴木啓司 (長崎大)

37. アコヤガイ外套膜殻側上皮細胞の初代培養における増殖

淡路雅彦¹、鈴木 徹²、(¹水産庁中央水産試験所、²水産庁養殖研究所)

38. HSP27の増殖制御における機能

荒田 悟、濱口信乃、野瀬 清 (昭和大学・薬学部・微生物学)

39. ウシ生殖系細胞と共培養したウシ精子の生理学的解析について

阿部宏之、金野斎子、山下祥子、菊地 努、佐藤 威、星 宏良 (機能性ペプチ
ド研究所)

§ 1995年度第10回秋季シンポジウムのお知らせ

近年、性ステロイドホルモンに関する研究は、in vitro培養系を用いて著しく進歩を遂げております。これらの研究分野は、子宮体癌、乳癌、前立腺癌などホルモン依存性癌に関する研究、胎児の発育や子宮内膜の脱落膜化などの生殖医学、卵巣・精巣・下垂体からの直接あるいは間接的なホルモン分泌動態、など多岐にわたっています。

in vitro培養研究の専門学会である我が日本組織培養学会が主催して、このように多方面に渡る性ステロイドホルモン研究の専門家に討議の場を提供することは、大変有意義なことと考えています。きっと、期待に違わず、最先端の発表と議論が展開されることと期待しております。

会員の皆様方には、今から御予定に組み込んで頂くようお願い申し上げます。

記

名称ならびにテーマ：International Symposium on "Sex Steroid Hormone Action in
iv vitro Culture System"

会 期：平成7年11月20日（月）～22日（水）

会 場：東京ガーデンパレス

東京都文京区湯島 1-7-5 電話 03-3813-6211

発表形式：国外・国内招請シンポジスト各々約15演題ならびに一般公募ポスター

国外招請シンポジスト：B v d Burg(Hubrecht Lab, Netherland), S Guller(New York Univ), E Gurpide(Mt Sinai School of Med), E K Innns (Univ California), K K Leslie(Univ Colorado), L Markiewicz (Mt Sinai), Leigh C Murphy(Univ Manitoba, Canada), Lian J Murphy(Univ Manitoba), J R Pasqualini(Foundation for Hormone Res, France), M C Romano(Biofisica y Neuro Centro, Mexico), P Vihko(Univ Oulu, Finland), A Weisz(Univ Napoli, Italy) (決定分のみ)

第10回日本組織培養学会秋季シンポジウム
代表世話人 蔵本 博行

§ 財団法人 島津科学技術振興財団からのお知らせ

(1) 平成7年度研究開発助成の募集

島津科学技術振興財団では、わが国の科学技術振興のため、将来の発展を期待される優秀な研究に対し、研究費の援助を行っています。

下記の募集規定に従って、ご応募下さい。

記

1. 助成の対象
科学技術、主として科学計測およびその周辺の領域における基礎的な研究を対象とします。
2. 応募の資格
原則として、国内の研究機関に所属する45才以下の新進気鋭の日本人研究者。
3. 助成の金額
援助金総額：約 2,000万円
採 択 件 数：約15件（1件につき100万円～250万円）
4. 応募の方法
当財団所定の研究開発助成申込用紙に必要事項を記入して、当財団に直接送付して下さい。申込の締切は平成7年9月30日必着（厳守）とします。
5. 選考審査の方法
当財団に設置する選考委員会が選考し、理事会の審議を経て決定します。
選考結果は、平成7年12月上旬に助成金受領決定者にものみ通知します。
（応募内容は秘密を厳守し、本選考以外には流用しませんが、書類は返却致しませんので、予めご了承下さい。）
6. 交付の方法
平成8年2月（予定）に開く贈呈式において助成金を交付します。
7. 助成金受領者へのお願い
助成金を受領した研究者は、本財団の事業目的に沿い、助成を申請した研究を遂行するために、有効に助成金を活用して下さい。
なお、平成9年5月頃に当財団の事業報告および論文集を発行致しますので、研究の成果（または進展状況）について、改めてご投稿をお願いすることがあります。
8. 本件に関するお問い合わせ、あるいは連絡先
〒604 京都市中京区西ノ京下合町11番地
財団法人 島津科学技術振興財団 事務局
TEL (075)823-3240 FAX (075)823-3240

(2) 平成7年度島津賞候補者の推薦依頼

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は当財団の事業に、格別のご理解とご援助を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当財団では、平成7年度も昨年度と同様に、島津賞（研究功労者の表彰）を下記のように計画致しました。

つきましては、権威ある貴学会より、島津賞の表彰に値する優れた功労者を、ご推薦いただきたく、ここに推薦用紙一式を添えて、お願い申し上げます。

敬 具

記

1. 表彰の対象
科学技術、主として科学計測およびその周辺の領域における基礎的な研究において、

近年著しい成果をあげた功労者を対象とします。

2. 表彰の内容
上記功労者に対し、賞状、賞牌、副賞賞金300万円を贈呈します。
3. 本年度の表彰件数
2件以内
4. 推薦の方法
当財団の指定学会・協会（別紙添付）からの推薦によることとします。
推薦者は当財団所定のものに限ります。
貴会よりの推薦件数の制限はありません。（なお、連名での推薦は辞退させていただきます。）申込締切は、平成7年9月30日必着とします。
5. 選考審査の方法
当財団に設置する選考委員会が選考し、理事会の審議を経て決定します。
6. 審査結果の通知
審査結果は、平成7年12月上旬に、推薦学会に直接文書で通知します。
（なお、応募書類は返却致しませんので、予めご了承下さい。）
7. 交付の方法
平成8年2月（予定）に開催する表彰式において贈呈します。
8. 受賞者による講演
受賞者には、上記受賞後、当該研究について講演をお願いし、後日当財団の発行する研究報告書、事業記録書類に投稿を依頼することがあります。

追伸 なお、選考日程の都合上、推薦の締切日が、大学の夏期休暇の直後の9月30日になっていきますので、毎年、締切日に遅れての書類到着が増えていきます。何卒、夏期休暇前にご手配を賜われますよう、併せてお願い致します。

財団法人 鳥津科学技術振興財団
推薦依頼学会・協会一覧

（順不同）

物理関係

- | | |
|------------|-------------|
| (1) 日本物理学会 | (10) 化学工学会 |
| (2) 応用物理学会 | (11) 電気化学協会 |
| (3) 日本分光学会 | (12) 日本生化学会 |
| (4) レーザー学会 | |

機械関係

- | | |
|--|-------------|
| | (13) 日本機械学会 |
| | (14) 日本材料学会 |
| | (15) 精密工学会 |
| | 電気関係 |
| | (16) 電気学会 |

化学関係

- (5) 日本化学会
- (6) 日本分析化学会
- (7) 高分子学会
- (8) 日本農芸化学会
- (9) 日本臨床化学会

17) 電子情報通信学会

18) 計測自動制御学会

情報処理関係

19) 情報処理学会

20) テレビジョン学会

生物関係

21) 日本生物物理学会

22) 日本細胞生物学会

23) 日本植物組織培養学会

24) 日本生物工学会

医学関係

25) 日本医学放射線学会

26) 日本核医学会

27) 日本エム・イー学会

28) 日本超音波医学会

29) 日本組織培養学会

薬学関係

30) 日本薬学会

その他

31) (日本学術振興会)

§ 名誉会員の適任者を推薦して下さい

会長 蔵本 博行

私達の日本組織培養学会は35年余の歴史を有する伝統ある学会であります。これまでの歴史の積み重ねは、会員の皆様方特に草創期の方々の献身的な御貢献の賜物と云えましょう。

そこで、本学会の発展に功績のあった会員を名誉会員に推薦し、感謝の意を表明したいと考えています。学会会則にも、「本会の育成、組織培養の進歩に著しく功績のあった正会員を名誉会員として推薦する」ことが規定され、また、「名誉会員推薦内規」(会員通信第80号P15)も定められています。

本年度は、第68回大会時の総会で報告の上、山田正篤、黒田行昭両先生を推薦することに幹事会で決定されております。

どうぞ、名誉会員に適任とお考えの方が居られましたら、私あるいは幹事に御推薦下さい。幹事会で審議させていただきます。

編集後記

昨年4月の幹事会で会員通信の年4回発行が決まり、超多忙となることが予想されましたが、この3月迄なんとか学会誌の発送に遅れずに会員の皆様にお届けすることができ、ほっとしております。年4回となりますと発行後1ヶ月半もすると次回の企画をし、原稿の依頼にかからないとなりませんので、時によっては今回のように記事が少ない号も出て参ります。そこで今後は会員の皆様方にも御寄稿をお願いしたり、また自由に記事をお寄せ頂いたりしてはどうだろうかと思っております。

私もこの4月で会員通信幹事の任期(3年)が終わり、ほっとする一方で、会員通信がさらに充実した内容になることをより一層期待するものであります。(Y. U.)